



## 戦後75年 知覧特攻平和会館の「いま」

戦後75年目を迎え、戦争を体験した方々から戦争の話聞く機会が少なくなる中、新しくなった知覧特攻平和会館の「いま」を紹介します。

### ■地域の人々の「記憶」を伝える

昨年4月、知覧特攻平和会館の一番奥にある部屋「戦史資料室」がリニューアルオープンしました。

この部屋では、西南戦争から太平洋戦争に至るまで、地域の人々が戦争とどう関わってきたのかをテーマにしています。実物資料に加えて、知覧町立図書館が発行してきた『知覧文化』や、『知覧郷土誌』に掲載されてきた証言や、特攻隊員の出撃を見送った元女学生にインタビューした映像など、地域の人々の証言を添えてあるのが特徴です。

例えば、戦争に軍人として出征した方、飛行場の造成に動員された方、アメリカ軍による空襲を経験した方、特攻隊員を見送った方などなど。この展示を見学することで、次の世代へと語り継ぐきっかけになるのではないのでしょうか。

### ■臨時休館中の展示リニューアル

知覧特攻平和会館は、今年4月5月、新型コロナウイルスの影響により、臨時休館になっていました。昭和62（1987）年の開館以来初めてのことでしたが、この休館期間を利用して、館内展示の一部リニューアルが行われました。

知覧特攻平和会館の中央にある遺品室の導入部分には、ジオラマ模型の横に、知覧飛行場が陸軍パイロットを養成する飛行学校であったことを説明する展示が整備されました。

また、零戦展示室の展示ケース内の改善や、震洋艇展示室では、聖ヶ浦震洋艇基地（知覧町南別府）を紹介する展示や、アメリカの国立公文書館から入手した当時の写真や、アメリカの戦争をテーマにした博物館との交流を紹介するコーナーなどが新しく設けられました。

### ■博物館を支える新任「学芸員」

今年4月から、知覧特攻平和会館には新しい学芸員が着任しています。埼玉県出身の羽場恵理子さん。日本女子大学・大学院で近現代史を学びました。着任早々、館内の展示リニューアルや企画展を手掛け、資料保存などの業務にも励んでいます。将来的には、これまでに同館が収集してきた資料の検証や、海外の博物館との交流にも意欲を見せています。



### ■特攻の史実を伝える「語り部」

知覧特攻平和会館では、「語り部」の存在が欠かせません。5人の「語り部」は、いずれも知覧で育ち幼少期から聞いていた特攻の話と、会館収蔵の資料をもとに、特攻隊員の最後の手紙や特攻隊員にまつわるエピソードを紹介しています。今年4月に1人が交代して新たなメンバー構成になりましたが、特攻の史実を伝える役目を果たしています。



### ■類似の博物館との「交流」

近年、海外の博物館と共同企画展を行うなどの交流が進んでいます。戦艦ミズーリ記念館(米国ハワイ州)では平成27(2015)年4月から、イントレピッド海上航空宇宙博物館(同ニューヨーク州)でも昨年11月から、特攻に関する展示がスタート。展示を通して、海外の方々へ情報発信されています。8月15日には戦艦シリーズ記念館と姉妹館提携を結び



ました。今後さらなる交流を深めていきます。

また、国内でも連携協定を結んでいる万世特攻平和祈念館(南さつま市)や大刀洗平和記念館(福岡県筑前町)との交流パネル展を、3館で同時開催中です(9月22日まで)。

この夏、新しくなった「いま」の知覧特攻平和会館を訪ねて、戦争があった時代の空気に触れ、振り返る「旅」にでかけてみませんか。

戦後75周年記念特別企画展

# 父の遺言

— 義烈空挺隊の真実 —

7月17日(金)～9月30日(水)  
知覧特攻平和会館

【問】知覧特攻平和会館 TEL0993-83-2525